

公明党「首都直下地震対策本部」が発足

地震対策のエキスパート 太田あきひろが総合本部長に

このほど公明党に「首都直下地震対策本部」が発足。太田あきひろが総合本部長に就きました。太田は京都大学・同大学院で耐震工学を研究した地震対策のエキスパート。これまでも防災・減災の先頭に立って働いてまいりました。

その結果が40%前半と判明すると、太田は予算・補正予算で常に学校耐震化を主張。2008年5月の中国・四川大地震、校舎の倒壊で多くの児童が犠牲に

2000年から教育改革に取り組む太田。学校耐震化率のデータすら存在しないことを知り、「子どもの安全なくして地震対策なし」と、すぐさま調査を提案しました。

学校耐震化の第一人者

太田は大地震のたび、その日か翌日には現地入りして陣頭指揮。なんとしても教訓を生かそうと、地震対策の強化につなげてきました。震度観測点を阪神・淡路大震災当時の160カ所から4200カ所に上へ拡充。素早い震度速報で初動対応を劇的に改善させました。

震度観測点を飛躍的に増加



東京都などが2月3日に実施し、約1万人が参加した帰宅困難者対策訓練を視察(右から2人目)

「防災・減災ニューデール」とは、国民と日本の国土を守り、安心・安全な社会基盤を再構築するため、全国的な防災・減災対策に緊急かつ集中的な投資を行うものです。

太田は首都直下地震対策の先頭に立ち、この「防災・減災ニューデール」の推進をはじめ、総合的な地震対策に全力で取り組んでまいります。

そして今、太田は、「防災・減災ニューデール」などの推進を訴えています。

防災・減災ニューデールなど総合的な対策を推進へ

なったことから、太田は直後、当時の首相に訴え、耐震化への自治体の負担軽減も実現しました。そして今や全国公立小中学校の耐震化率は80.3%に(東北3県を除く昨年4月現在)。北区・足立区では2012年度中に100%耐震化される運びです。

津波対策を法制化

「3.11」当日、東京・隅田川でも足立区小台で75cm、荒川の笹目橋で50cmの津波が観測されました。そこで太田は、東京の津波対策にも直ちに動き、津波に強いまちづくりを進める法律を成立させました。

【詳細は中面をご覧ください】

政治は結果。日本再建へ4つの全力。

1 経済危機の克服に全力。——政治の推進役として

- 東日本大震災の復旧・復興とデフレの克服・円高対策
- まず景気回復、そして財政再建
- 中小企業支援・企業税制支援・アジア市場の開拓と需要の拡大を推進
- 議員歳費削減などムダゼロを徹底
- 「防災・減災ニューデール」として社会インフラ更新などに集中投資

実現しました

- 信用保証協会の特別保証制度や売掛債権担保融資保証制度を創設
- 中小企業の留保金課税を撤廃
- 雇用を守る雇用調整助成金を拡充

2 安心社会の実現に全力。——生活者の一人として

- 安心の医療・年金・介護と高齢者雇用の充実
- 深刻化するうつ病対策を推進
- 若者雇用・仕事と生活の調和・保育所と児童手当拡充で骨太の子育て支援

実現しました

- 児童手当・出産育児一時金・奨学金などを拡充
- 駅にエレベーターやスロープ設置を促す交通バリアフリー法等を制定
- 医療・介護費用の負担軽減を図る「高額医療・高額介護合算制度」を創設

3 災害に強い都市へ全力。——地震対策のエキスパートとして

- 脆弱国土・日本に総合的なインフラ整備を
- 首都を直撃する巨大地震に備え、耐震・津波・液状化・火災への抜本対策
- ゲリラ豪雨など都市型災害と水害への対策を拡充

実現しました

- 学校耐震化を訴え全国公立小中学校の80.3%が耐震化(2011年4月現在。東北3県を除く)
- 地震発生の調査・研究、初動の迅速化のために震度観測点を大幅拡充
- 大規模災害などによる被災者を支援する改正被災者生活再建支援法の成立を推進

4 北区・足立区の実現に全力。——地元の代表として

- 地域医療のため国立印刷局東京病院の機能存続
- 地元と共存共栄の駅周辺再整備で賑わいの拠点を創出
- 日暮里・舎人ライナー駅周辺の開発整備とバス等との結節強化

実現しました

- 公明主導の議員立法を支え東京北社会保険病院を存続
- 日暮里・舎人ライナーの早期開業・車輻改善・朝と夜の増便に尽力
- 五輪選手を育成するナショナルトレーニングセンターを大幅に拡充・整備

ホームページが全面リニューアル!
「いまも全力」な太田あきひろをお伝えします。ぜひ、ごらんください。
<http://www.akihiro-ohata.com/>

メールマガジンも配信中!
※携帯電話で受信する場合、登録およびメルマガ受信時にパケット通信料がかかります。
太田からあなたへ、直接届くメッセージ。週1回程度の配信です。
ご登録は、右のQRコードからか、あて先に直接「p-ohata@w.bme.jp」を入力し、空メールを送信してください。

